

## 説明会(1日目)要旨

日時	令和7年1月30日(木)19:00～21:00
場所	防災コミュニティセンター 2階会議室
事務局	渡辺町長、筒井副町長、田中企画部長、山田企画課長、安藤企画調整係長 他係員2名
参加者	60名
報道	8社(中京テレビ、名古屋テレビ、岐阜放送、読売新聞、ケーブルテレビ可児、NHK、中日新聞、朝日新聞)
質疑 応答 要旨	<p>Q. 沿線高校の生徒も減少しており、今後も減少するとなれば、高校が無くなることなどは将来的にあり得るのか。また生徒の減少を考慮した試算であるか。</p> <p>A. 現時点で県立高校の将来的な動向については把握していない。現在の、高校生を含む全ての利用者数の輸送を確保する仮定で試算している。</p> <p>Q. 設備投資において新たに車両を購入することも含まれているのか。名鉄が全線で所有している車両を活用することはできないのか。</p> <p>A. 名鉄が所有する車両をワンマン化する改造費を計上しており、当該線区のために新たに車両を購入するというものではないと名鉄から伺っている。</p> <p>Q. バス路線に転換した際にバスの所有権はどうなるのか。</p> <p>A. 現在のコミュニティバスの形式を踏襲するのであれば、自治体が購入・所有し、運行するバス事業者が管理を行う形態になると想定している。</p> <p>Q. バス路線に転換した場合、現在の沿線3校以外の可児工業高校へのアクセスを確保するなど、可児市や八百津町と協議をしているのか。</p> <p>A. 勉強会においてバスのルート設定についての重要な視点は共有しているが、具体的なルートやバス停の位置までは協議していない。</p> <p>Q. 新可児駅から明智駅までがバス路線へ転換し、明智駅で乗り換えなければならないということか。</p> <p>A. 示しているとおり、新可児駅と御高駅を繋ぐバス路線をイメージしているため、明智駅で路線が切れるようなことは想定していない。</p> <p>Q. 鉄道存続に向けて町財政をどのように凌いでいく想定なのか。町民税を増やすなどのうわさも耳にするがどうか。</p> <p>A. 鉄道存続となれば費用の削減に向けた交渉などが必要である。財政の適切な運営を検討していくことになるが、町民税負担を増やすようなことは考えていない。</p>

Q. 可児市から名古屋や東京まで繋がるバス路線が整備されているがそれら広域的なバス路線との連携・連結は考えているか。

A. 代替バス路線を検討する観点から、現時点で他のバス路線を絡めたルート設定までは協議していない。

Q. 鉄道存続やバス路線への転換において県からの支援はあるのか。

A. 鉄道存続において、県はローカル鉄道への補助制度があることは確認しているが、現在の制度では大手民鉄のみなし上下分離方式で県からの支援は受けられない。バス路線であれば支援が受けられる。

Q. バス路線に転換した際には、3市町共同で運用するのか。費用負担割合などは協議しているのか。

A. 具体的なルートの設定などをしていないことから、費用負担割合などは協議していない。ルートの設定においては、3市町が実現したいバス路線を協議・合意して決めていくこととなる。

Q. 線路を改良し、かつての軽便鉄道で運用するなどの経費削減や利用促進を行うという選択肢はないのか。

A. 困難とは考えるが、アイデアとしていただく。

Q. 協定期間満了後の令和8年度以降の運行はどうなるのか。急に鉄道が無くなることはあるのか。

A. 結論付けた形態への移行期間も移動手段を切れ目なく確保する必要性について名鉄は理解している。

Q. 廃線になった場合、跡地はどうするのか。無料でもらえたりするのか。

A. 現時点では決まっていないが、沿線自治体が所望すれば、所有に向けて交渉していくことも考えられる。

Q. 運転士不足などもあり、バス路線への転換は現実的に継続できる手段なのか。

A. バス事業者からは、課題がありながらも実施可能と伺っているが、運転士の確保は簡単ではなく、調整にも時間がかかることが示唆されている。

Q. 通学定期券を利用している大学生・専門学校生などへのアンケート結果はあるか。

A. 大学生のみを対象にしたアンケートは行っていない。利用状況調査の一部でその動向は確認している。

Q. 鉄道では名古屋都市圏の大学や職場などへ1時間弱で通うことができるが、バス路線に転換することで2時間かかるということになってしまえば、大学生は下宿するようになり、通勤者もより都市圏に近いエリアへと転出されていき、御嵩町は通学者・通勤者が住めない・選ばれないまちになってしまうことを懸念しているが、どう考えているか。

A. 鉄道については速達性・定時性にも優位性があることを認識している。若い世代の考えや想いも含めて総合的に判断しなければならないと考えている。

Q. 沿線3高校は県の管轄であることから、必ずしも沿線3高校のためのダイヤ設定などは必要なのではないかと考える。県としてスクールバスの運行などは考えられていないか。

A. 現時点ではそのような運用をする予定はないことを確認している。

Q. 名古屋都市圏へのアクセスという点では、バスを土岐市駅などへ接続する手段も有効と考えるがどうか。

A. 現在は新可児駅～御嵩駅間の今後について3市町等で協議を進めているところであるため議論を進めているものではないが、町民からのニーズが高ければ、御嵩町の新たな2次公共交通として土岐市や多治見市へ接続するバス路線を検討することはあり得る。

Q. 御嵩町として公共交通に関する事業へ支出できる限界点はあるのか。

A. 金額としてお示しはできないが、持続可能な町政運営を行うという前提が達成できないのであれば、そこが限界点だと考える。

意見  
要旨

・利用者属性を鑑みれば、御嵩町民より可児市などのほうがその重要度が高いと予想されるため、鉄道存続であってもバス路線への転換であっても適切な費用分担を協議してほしい。

・新庁舎建設も進みつつあることから、バス路線への転換であっても、御嵩町の活性化に向けた積極的なバス路線への転換を進めてほしい。

・バス路線への転換においては、地域外からの利用もさることながら、御嵩町民の利便性を重視してほしい。